第二講　主語把握方法⑴／指示語（『伊勢物語』　すけるもの思ひ）

〈主語把握方法〉

① 人物、

＊あくまで「が」になることが「多い」。「や」や「を」になる時もある。

② **接続助詞**のルール

〜「　　」「　　」「　　」、〜 ⬇ 主語は「　　」ままが多い。

〜「　　」「　　」「　　」、〜 ⬇ 主語は「　　」。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

※「を」「に」「ば」で、前後の主語が同じ場合が多いとき

「　　　」＋（を・に・ば）、〜

「　　　」＋（を・に）、〜

③ **同一表現**

同じような表現の主語は一致する場合が多い。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈読解練習〉

昔、若き男、けしうはあらぬ女を思ひけり。さかしらする親ありて、思ひもぞつくとて、この女をほかへ追ひやらむとす。さこそいへ、まだ追ひやらず。

●けしうはあらず【怪しうはあらず・異しうはあらず】

❶（身分・容姿・才能・性質などが）

❷不自然ではない

●さかし【　　】

❶賢い

❷すぐれている

❸しっかりしている

❹

●さかしら【賢しら】

❶りこうぶること

❷

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★指示語

「　　」＝こう・このように

「　」
「　」｝＝そう・そのように

※指示内容＝「　　」を指すことが多い。

（後ろに和歌がある場合は、後ろの和歌を指すことが多い。）

かか＋｛ら・り・る・れ｝＝「　　」＋あり

さ＋｛ら・り・る・れ｝＝「**さ**」＋あり

しか＋｛ら・り・る・れ｝＝「**しか**」＋あり

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

人の子なれば、まだ心いきほひなかりければ、とどむるいきほひなし。女もいやしければ、すまふ力なし。さる間に、思ひはいやまさりにまさる。にはかに、親、この女を追ひうつ。男、血の涙を流せども、とどむるよしなし。

●いやし【卑し・賤し】

❶

❷みすぼらしい

❸下品だ

●すまふ

❶【　　　】

❷【　　　】辞退する・ことわる

●にはかなり【俄なり】

❶

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

●よし【　】
❶由緒・由来　❷　❸理由
❹風流　❺〜とのこと　❻縁・ゆかり
❼そぶり

★「逆接」を利用する

男、血の涙を流せども、…

率て出でて往ぬ。男、泣く泣く詠める、

出でていなばたれか別れの難(かた)からむありしにまさる今日は悲しも

と詠みて、絶え入りにけり。

●かたし【　】
❶難しい　❷めったにない

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

親あわてにけり。なほ思ひてこそいひしか、いとかくしもあらじと思ふに、真実に絶え入りにければ、惑ひて願立てけり。今日の入相ばかりに絶え入りて、またの日の戌の時ばかりになむ、からうじて生き出でたりける。

昔の若人は、さるすける物思ひをなむしける。今の翁、まさにしなむや。

（『伊勢物語』）

●**すく【好く】**
❶好色である
❷風流である

関連　すき【好き】❶色好み　❷風流の道に心を寄せること

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

★『**伊勢物語**』

ジャンル…**歌物語**

成立…十世紀中頃

●各章段の冒頭は**「昔、男ありけり」**（あるいは、「昔、男」）で始まる。

●「男」＝「　　　　　　」（**在五中将**〔ざいごちゅうじょう〕）とされている。

●「初冠〔ういこうぶり〕」から「辞世の歌」までの全一二五段から成る、男（業平）の一代記。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　復習問題

① 「隣さかしらするまでふすべかはして」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　気配りをする
イ　上手な歌を作る
ウ　恐れ多い真似をする
エ　でしゃばったことをする

② 「思ひもぞつくとて」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　女は一途な思いなど実はないのだろうと
イ　親の思いも無視するだろうと
ウ　若い男の思いもその時かぎりだろうと
エ　きっと女の策略だと思って
オ　女に対する思いが強くなると困ると思って

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③「いでていなば」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　私が連れて出て行くので

イ　もし自分から女が出て行くのならば

ウ　女が出て行ってしまうので

エ　もし女が出て行かないのならば

④「まさり[a]にまさる」と「絶え入り[b]にけり」の傍線部ａ・ｂ「に」の文法的説明の組合せとして正しいものはどれか。次の中から選べ。

ア　（ａ）格助詞　（ｂ）完了の助動詞「ぬ」の連用形

イ　（ａ）完了の助動詞「ぬ」の連用形　（ｂ）格助詞

ウ　（ａ）接続助詞　（ｂ）完了の助動詞「ぬ」の連用形

エ　（ａ）完了の助動詞「ぬ」の連用形　（ｂ）接続助詞

オ　（ａ）接続助詞　（ｂ）断定の助動詞「なり」の連用形

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講

〔現代語訳〕

昔、若い男が、（容貌や気立てが）悪くはない女のことを（愛しいと）思った。（この男には）おせっかいをする親がいて、（女に対する）思いがつくと困ると思って、この女をよそへ追い出そうとする。そうは言うものの、まだ追い出していない。（男は）親に養われている身なので、まだ（自分の気持ちを主張する）気迫がなかったので、（親が女を追い出すのを）止める力がない。女も身分が低いので、抵抗する力がない。そうこうしているうちに、（男の女への）思いはいよいよ募る。突然、親が、この女を追い出した。男は、血の涙を流すが、（女を）とどめておく方法がない。（従者が女を）連れて出て行った。男が、泣く泣く詠んだ（歌）、

出でていなば…＝（女が自ら）出て行ったのならば、誰が別れ難いと思うだろうか、いや思わない。（しかしそうではないので）以前にもまさって、今日は悲しいことよ。

と詠んで、気を失った。親はあわてた。なんといってもやはり（親は息子のことを）思って言ったのだが、これほど（女性を思う気持ちが強いわけ）ではあるまいと思っていたのに、本当に気を失ってしまったので、（親は）うろたえて神仏に祈った。今日の日暮れ頃に気を失って、翌日の戌の時〔＝午後八時頃〕頃に、ようやく息を吹き返した。

昔の若者は、そのような熱の入った恋の思い悩みをした。今の時代の老人は、どうして（このような恋を）することができようか。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第二講　解答解説

〔解説〕

① 「さかしら」は重要単語で、「りこうぶること」「おせっかい・出しゃばり」の意味。よって、正解はエ。

② 「もぞ」は「～したら困る・大変だ」と訳す危惧の用法。よって、正解はオ。

③ 「いなば」は、ナ変動詞「いぬ」の未然形＋接続助詞「ば」。したがって、順接仮定条件「もし～ならば」である。「いでていなば」に打消はないので「出て行かない」という解釈にはならない。よって、正解はイ。

④ 動詞の連用形に付き、同じ動詞に挟まれている「に」は格助詞「に」で強調の働き。よって、a「まさりにまさる」の「に」は「格助詞」。この時点で、アが正解。ちなみに、bは「連用形＋に」、もしくは「にけり」で上が「死・去・往」のいずれでもないので、完了の助動詞「ぬ」の連用形。aがわからなければ解けない問題である。

〔解答〕

① エ　② オ　③ イ　④ ア

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。